

出題分析			
試験時間	75 分	配点	150 点
		大問数	2 題
分量 (昨年比較)	[減少 <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 増加]	難易度変化 (昨年比較)	[易化 <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 難化]
【概評】 〈現代文〉 問題文の分量は 2025 年と同程度。2025 年同一日程と同様、設問中に問題文と同一出典の別の個所からの文章が引用された。 〈古文〉 問題文の分量・設問形式はともに例年どおり。			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
一	現代文 (評論) 渡邊雅子 『論理的思考とは何か』 ○行数 : 104 行	アブダクション (= 遡及的推論) の推論法と意義について論じた文章。(一)の内容説明問題は、アブダクション・演繹・帰納の内容を丁寧に読みとる。(三)の内容説明問題の選択肢 1 は「既存の原理をなぞること」が不適當。(五)の記述問題は、アブダクションがもつ「拡張的機能」の積極的意義に言及する。 ※ (昨年度) 評論、106 行、7 問 (7)	標準 〈問題文〉 やや難 〈設問〉 標準
二	古文 (江戸・狂言論) 大蔵虎明 『わらんべ草』 ○行数 : 19 行 ○小歌 1 首を含む	狂言師がもつべき心構えについて書かれた文章。(一)の語句問題は、やや選びづらい。(二)の内容説明問題は、接続詞「また」を介して前後がともに「あらば」となっている点を押さえる。(五)の文法問題の選択肢 4 は、尊敬の助動詞「らる」の連用形の一部。(六)の内容合致問題の選択肢 1 は「一日の時間帯に合わせて」、選択肢 5 は「それなりの時間が必要」がそれぞれ不適當。 ※ (昨年度) 室町・説話、22 行、7 問 (8)	標準 〈問題文〉 標準 〈設問〉 標準

※ 「行数」は問題文の行数。同志社大学の問題文は通常 57 字/行 (20 行/頁)。

※ 昨年度のデータは、同一日の試験問題にもとづく。

設問構成 (設問数・形式・内容)													
大問 番号	設問数 (枝問総数※)	選択式 枝問数	記述式 枝問数	漢字	内容 説明	理由 説明	全文 把握	空欄 (脱文) 補充	主語 確認	現代 語訳	訓読 訓点	語句 文法 知識	その 他
一	5 問 (8)	7	1		4	1> <i>I</i>	3						
二	7 問 (8)	7	1		3> <i>I</i>		1			1		3	

※「枝問総数」は、各設問（小問）に含まれる枝問も個々に数えた場合の全設問（小問・枝問）の総数。設問形式・内容別の設問数も、これと同様の方法で算出した（ただし漢字の読み・書き取りの設問は、枝問に分かれている場合も設問単位で「1問」と数える）。

※「設問内容」の「>」の後の**太字斜体の数字**は、記述式の枝問数を示す。

合格のための学習法
<p>〈現代文〉</p> <p>同志社大学では例年長文が出題されるので、日頃から硬質な長文に慣れておくことが重要である。その際は、各パラグラフの主旨を意識しながら読解することを心がけよう。</p> <p>〈古文〉</p> <p>内容説明問題に比重を置きつつも、単語の意味や文法が問われる設問も例年出題されている。古文知識を定着させつつ、問題文を読解する練習を重ねよう。</p>